

## エレミヤ書 29 章 11-13 節

## 神の救いの計画

29:11 わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——【主】の御告げ——それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。

29:12 あなたがたがわたしを呼び求めて歩き、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに聞こう。

29:13 もし、あなたがたが心を尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つけるだろう。

## はじめに

本日は先週のメッセージの続きでもあります。先週は、全ての神の約束は全ての神の子どもの為にあるので、尊い素晴らしい約束として出来るだけ暗記して信仰の戦いを勇敢に戦う為に使うのが大切だと話しました。

ローマ8:28「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」

簡単な復習をしますと、ローマ人への手紙8章28節から39節までにある3つの無条件的の約束の話をしました。31節からは神がいつも味方として共にいてくださるという約束、38-39節からは永遠に変わらない愛が保証されているという約束、そして最後に37節からは最終的に圧倒的な勝利者にして下さるという神様の約束を見ることができました。それらは全てとても力強い言葉で、確信に溢れ、全く疑いの余地もない尊く素晴らしい約束として書いてあります。

今日はローマ8:28に書かれている神のご計画に従って召された人々の為に、つまり、全てのイエス様の信者の為にあるご計画について更に詳しく書かれている聖書箇所を中心にして話したいと思います。

念の為に申し上げますが、もちろん、エレミヤ29章の流れで言いますと、この約束は最初にイスラエルの為に与えられたものですが、神様は最初からそのような狭い考え方で与えられたのではなく、エレミヤ書のこの後にある31章31節から書かれているイエス様の新しい契約の約束にあるように、イエス様の十字架によって全ての信者の為に全ての約束を実現して下さっています。

## 1. 神の平安を与える計画 (11節)

英語の翻訳と日本語の翻訳は違うように見えますが、原語のヘブライ語で確認すると、深い神様の考えの意味が含まれていますから、英語の聖書では「考え」と訳されているものと「計画」と訳されているものがあります。両方の意味が含まれていますから、両方正しいと言えます。私は日本語の聖書にあるように「計画」の方がその言葉の重みをはっきり表しているのです、そちらを使っています。

29:11 「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ。——それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」 災いではなくて、平安を与える計画であり、とあるように、恐れが伴う災いではなくて、恐れとは反対で平安を与えるというのは、神の救いの計画の大きな特徴です。一部の英語の翻訳では平安の部分が「繁栄させる」と訳されてしまい、残念ながら最近は繁栄の福音 (Prosperity Gospel) と呼ばれている福音が流行ってしまっています。

繁栄の福音では、日本のご利益宗教と同じように、神様は楽で贅沢な暮らしをさせてくれると教えています。私ははっきり言いますが、聖書では神様は楽で贅沢な暮らしを与えるよう約束はされていませんが、お金で買う事が出来ない、心と精神を健全に守る平安を与えるという約束が繰り返して書いてあります。

コロサイ**3:15** 「キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。」

この聖書箇所にあるように、イエス様を信じて救われた時にこの平安を始めて経験しますから、多くの信者にとって最初の救いの確信として経験します。それまで自分が経験した事のない平安ですから、イエス様が言ったようにこの世のものではなく、天から与えられる平安として心の底まで満たしてくれる平安です。イエス様しか与えられない計り知れない宝物です。

ヨハネ**14:27** 「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」

この平安は健全な心と精神を与えて守る役目があると同時に、神様の計画の中で私たちを導く役目もあります。自分が何かを決断をしようとする時に平安を持って進む事が出来ないなら、それは神様の御心ではなくて間違った方向に行こうとしている事の証拠となるように私たちに与えられているのです。神様が平安のない所に導く事はあり得ません。平安を得る為に救いの計画の中で召されているなら、その平安を失うような神様の導きはあるはずはありません。

テモテ第二**2:13** 「私たちは真実でなくても、彼は常に真実である。彼にはご自身を否むことができないからである。」 ご自身を否む事が出来ないと言うのは、神様ご自身のご性質と御言葉がいつも完全に一致していなければならないということです。それで神には嘘をつくことが不可能だと聖書に書いてあるのです。私達信者がこれを理解したならば、安定した信仰を持って自分の全てを、自分の命でさえも、家族でさえも、神様の約束に全てをかける事が出来るようになります。

## 2. 将来を与える計画

私の言葉でこれを分かりやすく伝えらるれば、「行き詰まる事が不可能な人生が保証されている。」ということでしょう。

イエス様の全ての信者はどんな時でも、必ず、前に進む事が出来ます。聖書全体の中で、神様の働き方の特徴がいくつかがはっきり表れています。その中の一つとして、神様は道のない所で道を開く事が好きなので、繰り返しその働き方をされています。なぜなら、神様は人間が自慢出来たり、高ぶって高慢になれたりするような働き方は絶対になさらないからです。全ての栄光が神様のものとして神様に返されるような働き方以外はなさいません。その為にわざと私達を自分の力や能力だけで絶対に解決出来ないような、誰から見ても不可能な所に導かれます。旧約聖書の一番明白な実例はモーセとイスラエル人を紅海に導かれたところです。

逃げ道のない所に来てしまい、後ろからエジプトの軍隊が皆を殺す為に追いかけて来ていました。

しかしちょうどいい時に神様は海の中の道を作りました。

出エジプト記 **14:13** 「それでモーセは民に言った。「恐れてはいけません。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行なわれる主の救いを見なさい。あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久に見ることはできない。」

神は、中途半端な救出ではなくて圧倒的な勝利者として導かれました。

ヨハネの黙示録**3:8** 「わたしは、あなたの行ないを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。」

本当は私にとって日本に入国するのは不可能なことでしたが、特別許可を与えられてからもう**35年**間日本に住んでいます。からし種のような小さい信仰があれば、山でも動かす事が出来ます、とイエス様は言いました。

他にも、人の為にわざと不可能な状況になるまで待って、そして最悪と思われる時に、つまりそれが絶対に不可能だと思われるような時に神様の働きを見る事が出来ます。ラザロとその姉妹達の経験したことが、イエス様の働き方の現れた場面でも素晴らしい実例の一つです。

ヨハネ 11:40 「イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」

話の流れを簡単に説明しますが、ラザロが病気になった時に姉妹達がイエス様に知らせたのに、イエス様はラザロが死ぬのを待ただけではなく、死んでから4日間が経つのを待ちました。遺体が腐敗し始めるのを待っていたのです。その時に行って姉妹にこう言いました。「信じるなら、神の栄光を見る。」それから、ラザロを死者の中からよみがえらせました。

このイエス様の言葉は全ての信者にとって真実です。全ての信者が必ず自分の経験において神の栄光を見るようになります。天国に行く前に今、心の中で復活したイエス様を見る事によって、神の栄光を始めて見て、それから不可能な事を信仰によって経験する事によって神の栄光を見るようになります。

もちろん、最後には誰でも死ぬことを経験しますが、イエスの信者にとってはそれでも行き詰まることにはなりません。イエス様は私達の為に既に死に打ち勝った勝利をもって私達を天国に連れて行って下さいます。

コリント第一 15:54-55 「しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた。」とするされている、みことばが実現します。死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」と聖書に書いてある通りです。

### 3. 希望を与える計画

希望はどんなに大切なものかを考える時、沢山の聖書箇所が思い浮かびます。

コリント第一 13 : 13 「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」 永遠に残る3つの中の1つです。

他にもいくつかの違う箇所に繰り返して書いてある御言葉もあります。

ローマ 10:11 「聖書はこう言っています。「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」パウロは旧約聖書のイザヤ書28:16を引用しています。同じ箇所がローマ9 : 33にも引用されています。

ペテロ第一2:6 「なぜなら、聖書にこうあるからです。「見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない。」

こんなに繰り返して聖書に書いてある言葉は少ないですから、どんなに大切かが分かります。

簡単に解釈すれば、イエス様の信者はどんな時でも、希望を失う事はありません。行き詰まる事が不可能なのと同じように、完全に希望を失う事も不可能です。逆に神様は希望の神様と呼ばれていますし、希望に溢れる人生を与えて下さいます。

ローマ15 : 13 「どうか、望みの神が、あなたがたを信仰によるすべての喜びと平和をもって満たし、聖霊の力によって望みにあふれさせてくださいますように。」

これは聖霊の力によって希望にあふれさせると言う事です。聖霊が心に入って住んで下さる事によってイエス様の復活の命を与え、永遠の希望で満たして下さいます。

ローマ5:5 「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」

神様に自分の全てを明け渡している時、心は聖霊に満たされて神様の愛で支配されます。私達の心をきよく守ることができるのは神様の愛以外は何もありません。聖霊以外のものに支配されたら、束縛されてしまうという意味になりますが、聖霊に支配される時は私達が一番自由になる時です。好き勝手な自由ではなくて、全ての悪の力に打ち勝つ勝利の自由です。

希望は平安と一緒に私達の心と精神を健全にし、そして守ってくれる役目も果たします。それで、使徒パウロは神様の武具として与えられているものの中で救いの希望をかぶととしてかぶりなさいと教えました。エペソ6章には救いのかぶとしか書いてありませんが、別の箇所でその意味を説明しています。

第一テサロニケ5:8「しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶととしてかぶって、慎み深くしていきましょう。」 かぶとは頭を守る為にあるので、その意味は希望によって精神的な状態を健全に守るということです。

まとめ

エレミヤ29:12-13「あなたがたがわたしを呼び求めて歩き、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに聞こう。 29:13 もし、あなたがたが心を尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つけるだろう。」

この言葉はイエス様の全ての信者に与えられている特権です。どこでも、いつでも、祈りが聞かれて神様と個人的な関係を持つ素晴らしい特権です。この素晴らしい特権はイエス様が天国に帰られて聖霊を自分の信者達に与えるまでは与えられていなかったのです。でも、心を尽くして私を求めるときに私を見つける、と書いてあります。第一に神様を求めている時だけその確信が与えられています。神様の約束の真実は変わりませんが、神様ではなく他のものを大切にしまうと確信を持ってないということです。

ヘブル10：19-20.

「こういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所にはいることができるのです。 10:20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道を設けてくださったのです。」

神様の前に出る新しい生ける道ですから、これもイエス様によって一人一人の為に実現されている尊く素晴らしい約束です。自分の物として、少なくとも11節を暗記して、行き詰まりそうな時に思い出してください。